

経営比較分析表（令和4年度決算）

静岡県 袋井市

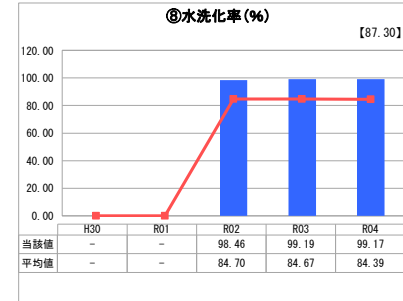
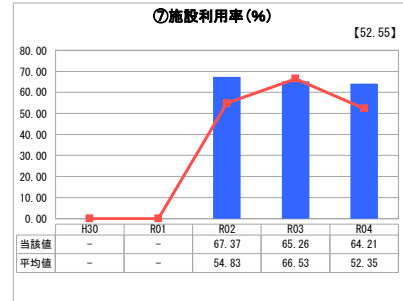
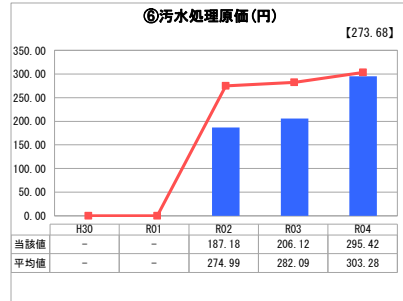
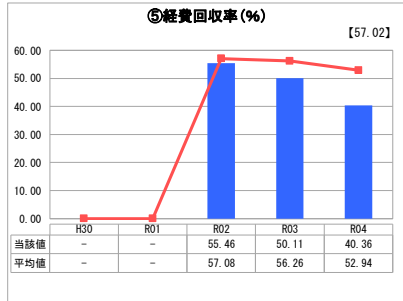
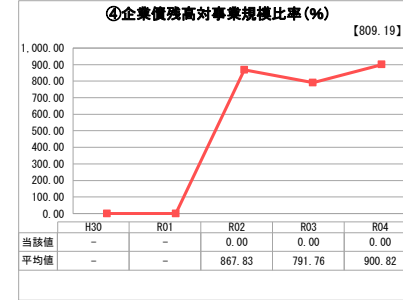
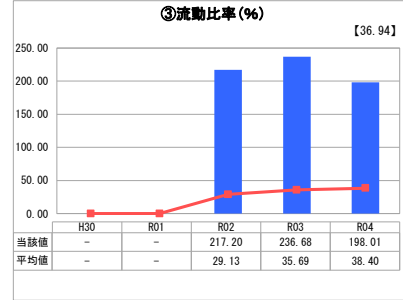
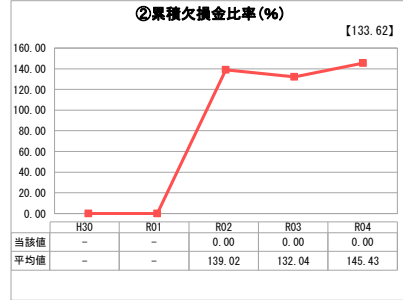
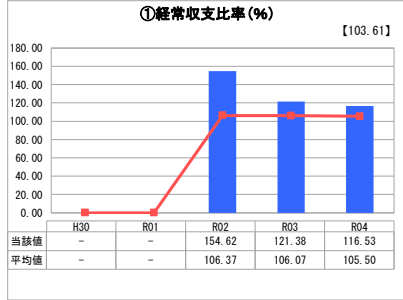
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	83.06	0.27	100.46	2,437

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
88,562	108.33	817.52
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
242	0.08	3,025.00

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



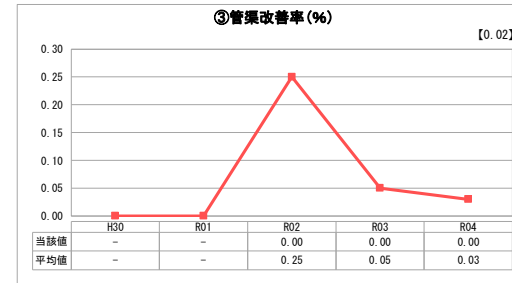
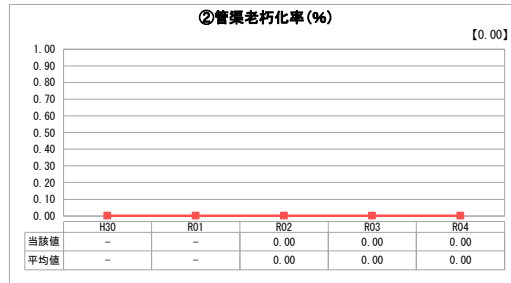
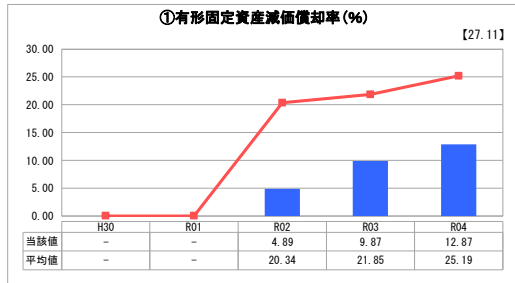
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、類似団体や全国平均を上回り、100%を超えているが、経常利益のうちの多くを一般会計繰入金に依存している。
 ② 累積欠損金比率は、未処理欠損金はないが、利益を上げられる企業体質ではない。
 ③ 流動比率は、流動負債のほとんどを占める企業債残高が少ないため、高い比率となっている。
 ④ 平成29年度から繰出し基準割合が100%となっているため、比率が0%となっている。
 ⑤ 処理人口（約240人）に対して、多額の処理場維持管理費が必要であるが、公共下水道使用料と同一料金体系であるため、また有収水量の減の影響もあり、低い値となっている。使用料を定期的に見直し、経営状況や社会情勢を踏まえながら改善を図っていく。
 ⑥ 整備は完了しているが、有収水量が下降傾向にあるため、修繕規模によっては汚水処理費が大きく増加し、汚水処理原価が高くなる。最適整備構想に基づく効率的な維持管理を行っていく必要がある。
 ⑦ 処理人口がほぼ増減がないため、横ばいで推移している。
 ⑧ 本事業前の地元説明会や地元管理組合の設置により事前周知が徹底されており、また、人口に大きな変化がないため、水洗化率は、ほぼ100%である。

2. 老朽化の状況について

現在耐用年数を超え更新対象となる管渠はない。今後は、長期的な視点に立ち、計画的に管渠の更新を行う。

2. 老朽化の状況



全体総括

事業規模が小さく、有収水量の減の影響により、使用料収入で賄うべき汚水処理費（公費負担分を除く）を一般会計からの繰入金に大きく依存する状況にある。今後は経営戦略に基づく事業運営を行い、経営健全化を図る。また、使用料を定期的に見直し、経営状況や社会情勢を踏まえながら改善を図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。